

本発表は、人工知能が導く教育のパラダイム・シフトの可能性について、英語教育を例として論じるものである。社会は想像を絶する勢いでグローバル化が進んでおり、既存の大学自体が存立意義を問われる中、ましてや、大学英語授業が未来永劫安泰なはずがない。

本発表は英語教育の未来を語る一つの振れ幅の「極」として、もはや現行の英語教育が不要となる可能性について肯定的に論じることを試みるが、改めて英語教員が自分達のレゾナードールを問い直すことは、その意義を考えても決して無駄ではないはずである。無論、こうした論調を正面から論じた記述はこれまで見当たらず、批判も承知しているが、本発表が一つの契機となり、改めて大学英語教育に対する抜本的な議論が沸き起こることを切に希望する。

**連絡先:** [ikoguchi@lang.osaka-u.ac.jp](mailto:ikoguchi@lang.osaka-u.ac.jp)